



矢尾 匡 永

奈良工業高等専門学校 情報メディア教育センター長

情報メディア教育センター長の矢尾です。情報メディア教育センターとは、図書館と各学科共用のコンピュータールーム(総合情報センター、マルチメディア演習室、LL教室)を運営し、本校の教育を支援するための学内組織です。センター長としての巻頭言は初めてなので、まず自己紹介から始めます。私は機械工学科の教員で58歳になりました。最近では本科4年生および5年生の熱工学関連の科目を中心に授業を担当しています。若い頃には、情報処理の授業も担当していました。30年ほど前の情報処理の授業では、コンピューターの言語教育の他に、コンピューターの歴史や未来などについても説明していました。その中で、「将来、コンピューターの操作はテレビのように簡単で、関西弁で命令が出来るようにならないと、広い年齢の層の人たちにコンピューターが使われるようにならない。」と私なりの勝手な予測を言っていました。最近のパソコン、タブレット端末、スマートフォンはこの予測を既にも実現していると感じています。ただし、コンピューターは利用者にとって非常に簡便なものになった反面、パソコンが始めた頃、私達でも割に簡単にできたプログラミングが複雑で厄介になり、コンピューター内でどの様な事をやっているのかはブラックボックスになってしまったと感じています。多分に年齢の故もあるかもしれませんが、このような経験は、パソコン、タブレット端末、スマートフォンの購入や利用に際して、わりに多くの人々が経験しているのではないのでしょうか。

次に、本校の図書館についてお話しします。本校の図書館は、(1) 学生諸君の学習と(2) 学生および教員の研究とを支援する図書館機能の充実の2点を重要項目として取り組んできています。図書館は本校の学生や教職員だけでなく保護者の

方や一般の方も利用可能です。図書館は平日夜8時まで、土曜は9時から16時30分の間、開館しています。視聴覚資料を含む図書館の蔵書は平成20年12月に登録冊数が10万冊を超え、本校図書館webを通して検索することが可能となっています。主に、蔵書は教職員による推薦図書や学生図書委員会が年2回実施しているブックハンティングによって、毎年約1,800冊程度が追加されています。この他、①国語科教員の協力の下に実施する読書感想文コンクール、②学生図書委員会でテーマを

決め、秋に図書館内で開催する読書週間、③クラスや個人を対象とした多読表彰、④図書館だよりの発行、⑤研究紀要の発行、⑥定期試験期間前および試験期間中における学生の自習のための大視聴覚教室の開放などを実施しています。スマートフォンなどの情報メディアと共存しながら、本校図書館は購読雑誌の継続的な見直しなど、利用者のニーズに沿った「元気な図書館」でありたいと考えています。昨年度は、購読雑誌の見直しに関連して、女子学生が読みたい雑誌を投票して決めた「総選挙」を実施しました。さらに、図書館は「情報の達人」でありたいと考えています。例えば、研究の為の文献検索の講習会を要望に合わせて継続的に実施しています。また、昨年度から、本校図書館webで、学生の各種プロジェクトやコンテストの取組みなどを資料として収蔵し、本校図書館webで閲覧できる「奈良高専図書館アーカイブ」をスタートさせました。同時に、図書館廊下のパネル展示スペースにて「奈良高専図書館アーカイブ」を公開することにしました。

最後に、もう一度スマートフォンなどの情報メディアについて述べます。昨今、スマートフォンの「ながら歩き」などが問題になっています。本校では「ながら自転車」や「ながら授業」が目立っています。情報メディアは便利なツールですが、中で何をやっているかはブラックボックスです。受身で情報を得る場合、特定のページを閲覧するだけでメディアがウィルスに感染するとニュースも新聞に掲載されています。何かを発信する場合には、自分の考え方や私的な事柄を半永久的に広く公開することになります。広く情報メディアを利用する本校では、スマートフォンなどの情報メディアの取扱いなどについて具体的な対応の検討を始めています。また、本校では保護者の方への啓蒙も必要と考えています。それらが明確になり世の中の情報メディアの利用法が落ち着くまでの間、恐らく確かなことは「君子危うきに近寄らず」だと思います。

